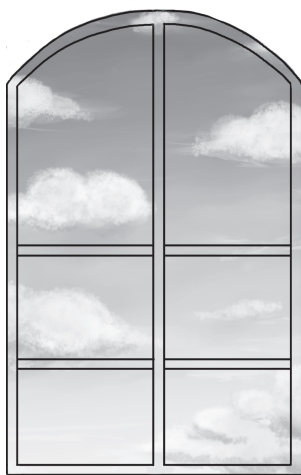


# 三太物語

～三人の子育ての経験が私の宝物～

真木 裕衣子



## まえがき

「三人の息子を育てつつフルタイムで働いています」と言うと、みなさん「すごい！」と驚かれます。私たちの家族の周りにはいつも支えてくれる人がいて、いつの間にか子どもたちも成長してくれました。

子どもが生まれてから小学生のはじめくらいまでは、食べさせたり、着替えさせたり、お風呂に入れたりとお世話を中心です。ある程度一人でできるようになると、勉強のこと、学校のこと、友達のことなど子どもの世界が広がっていきます。これに伴い、お世話だけしていたころとは違って、親が何かしようと思っても手が出せない問題が出てきます。

私の三人の息子のうち、二人が不登校を経験しました。なぜ学校に行けないのだろうか？ この子の将来はどうなるの？ 勉強が遅れてしまう。友達はいるのだろうか？ などなど不安ばかりが膨らんで、暗く重たい気持ちでいっぱいになりました。まるで出口のないトンネルを進む気分でした。しかし、夜明けの来ない夜はないのです。二人の息子はそれぞれに苦しみを乗り越えて、歩き出し自分の進路を見つけて進んでいます。

息子たちはどうやってトンネルを抜けたのでしょうか。トンネルを抜けるためにはまず、トンネルの中にいるのは息子ではなく、母親である自分だと気づかなくてはなりません。それは、不登校の息子を見て嘆いている私の問題なのです。私の問題ならば、私が解決すれば良いのです。子どもに何かさせようとするより、自分でする方がどれだけ簡単でしょうか？ 私は子どもに何か言ったり、やらせようとしたりすることなく、自分の行動を変えていくことで、自分の問題としての息子の不登校から脱出しました。

目の前の問題を人のせいにならず、自分に原因があるという見方をしてみると、自分の周りの嫌な人が減ってきました。それまでは周りの人の欠点ばかり見ていたのですが、その人の良いところも見られるようになったのです。あの人のこういうところは好きになれないけれど、こういうところは素晴らしい、なんて思えるようになりました。こうして、嫌なことばかり考える毎日から、楽しいことを考える毎日にシフトチェンジできたような気がします。もちろん、躓くこともあります。ただ、立ち直りが早くなりました。

息子は成長しましたが、今も三人の息子を育てつつ、フルタイムで働くスタイルは変わりません。毎朝起きるのも苦にならず、仕事に行くのが楽しいです。そんな見方を変える方法を息子の不登校からの脱出とともにご紹介したいと思います。